

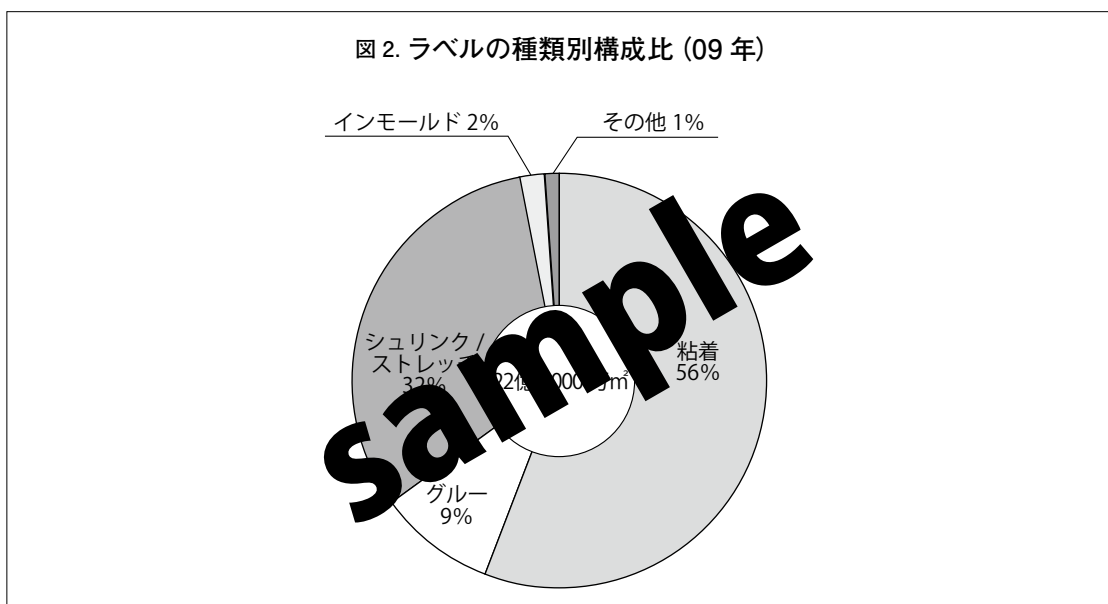
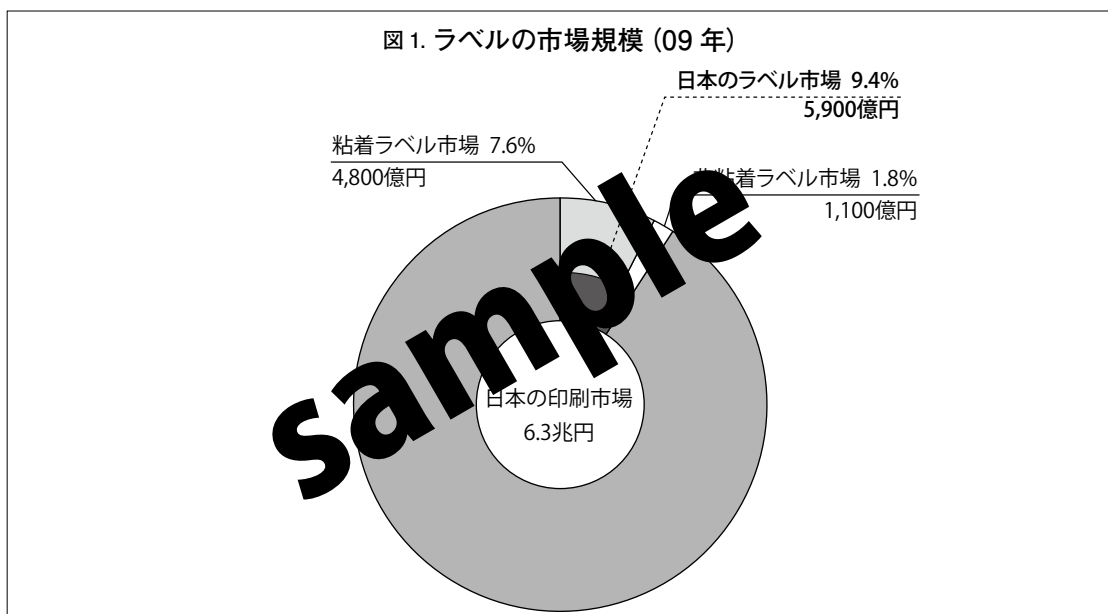
1. 日本のラベル市場

1) 市場規模

2009年の日本のラベル市場は、印刷産業全体の9.4%を占め5,900億円市場に、また、粘着ラベル市場は同7.6%で、対前年比4%減の4,800億円市場となった。

印刷市場は、08年のリーマン・ショックによる世界同時不況の影響から、急激に縮小している。ラベル市場の縮小幅は、ほかの印刷産業より緩やかであるものの、09年はマイナス成長となった。

ラベル市場の構成比では、粘着ラベルが最も多く、全体の56%となった。



*種類別構成比は算出方法を変更しました

2) ラベルの種類と主な需要分野

ラベル市場で最大の構成比となっている粘着ラベルは、ラベリング適性が高いことから、幅広い分野で商品に貼付されるなど、採用が進んでいる。また、各分野のユーザーニーズに応じて、粘着加工技術を駆使した開発もさまざまな形で進んでおり、今後も有望なラベルの種類として成長が予測される。同ラベルは、商品・表示以外でも、宛名ラベルや物流・FA管理での需要があり、特に物流やFA関連は採用がいったん減ったものの、10年には、企業の業績回復に伴い採用数量が増加傾向に転じている。

その他のラベルが一様に構成比を落とす中であって、10年から飲料分野で採用を伸ばしているのがラップラウンドラベル。環境対応やコスト削減などの要因で、飲料各社のメジャーブランドで採用が進み、同分野におけるシュリンクラベルの採用を縮小させている。

表1. ラベルの種類と主な採用例

ラベルの種類	主な採用例	特徴
粘着	食品、値札、精密機器、自動車、物流	小ロット、ハンドリング適性、高付加価値
グルー	酒・ビール類、調味料、ドレッシング	大ロット、低コスト
ディレードタック	飲料、医薬品、調味料	感熱接着剤を使用、剥離紙不要、環境対応
シュリンク	飲料、調味料	大ロット、表示面積の確保
インモールド	トイレットペーパー、テイクアウトカップ飲料	耐水性、容器の補強、リサイクル適性
ラップラウンド	ミネラルウォーター、茶系飲料	低コスト、環境対応
ストレッチ	ペットボトル飲料	伸縮対応
ガム	切手	低コスト

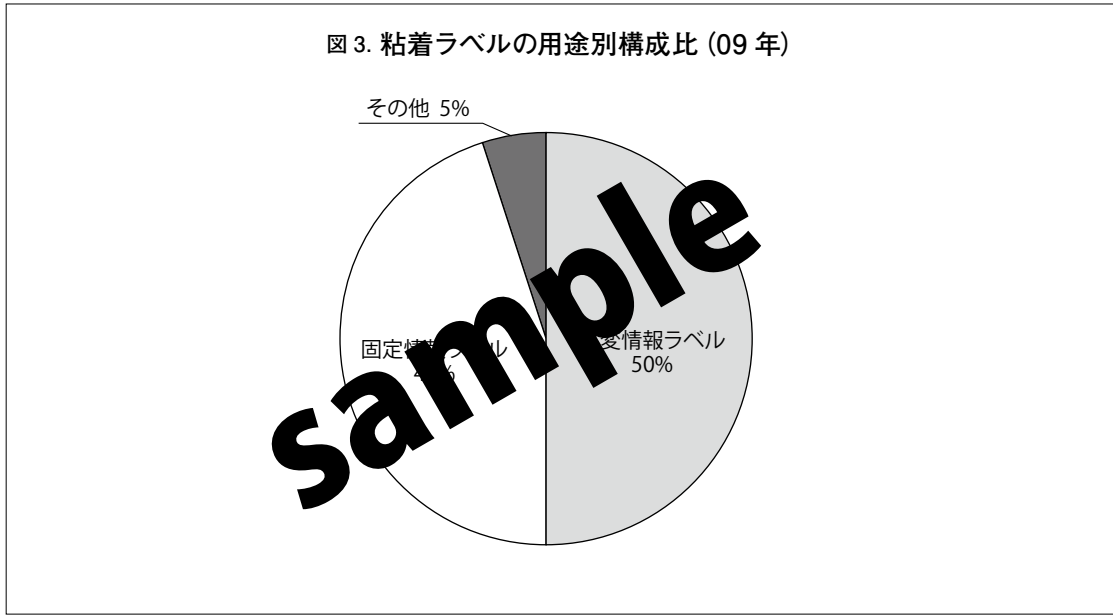
3) 粘着ラベルの用途動向

粘着ラベルは、商品の表ラベルに採用される固定情報ラベルと、製造年月日やロットなどの裏ラベルやプライ斯拉ベル、バーコードラベルなどに採用される可変情報ラベルの2つに大別される。固定情報ラベルは、ラベル印刷機で製造するのに対し、可変情報ラベルは、変化する情報個所をラベルプリンタやデジタル機などで印刷・印字する。

昨今、商品やモノの動きには可変情報による管理が必要不可欠となっており、可変情報ラベルは増加傾向にあり、構成比では50%を占める。

固定情報ラベルの一部にも、可変情報を印刷するケースが増えている。そのため、輪転機など従来の印刷機に、可変情報を印字するIJユニットなどを搭載し、一工程で生産する動きも進んでいる。さらに、デジタル印刷機の機能性向上によって、可変情報はもちろん固定情報もすべてデジタル印刷機でまかなうラベルの仕事も増加している。

図3. 粘着ラベルの用途別構成比 (09年)



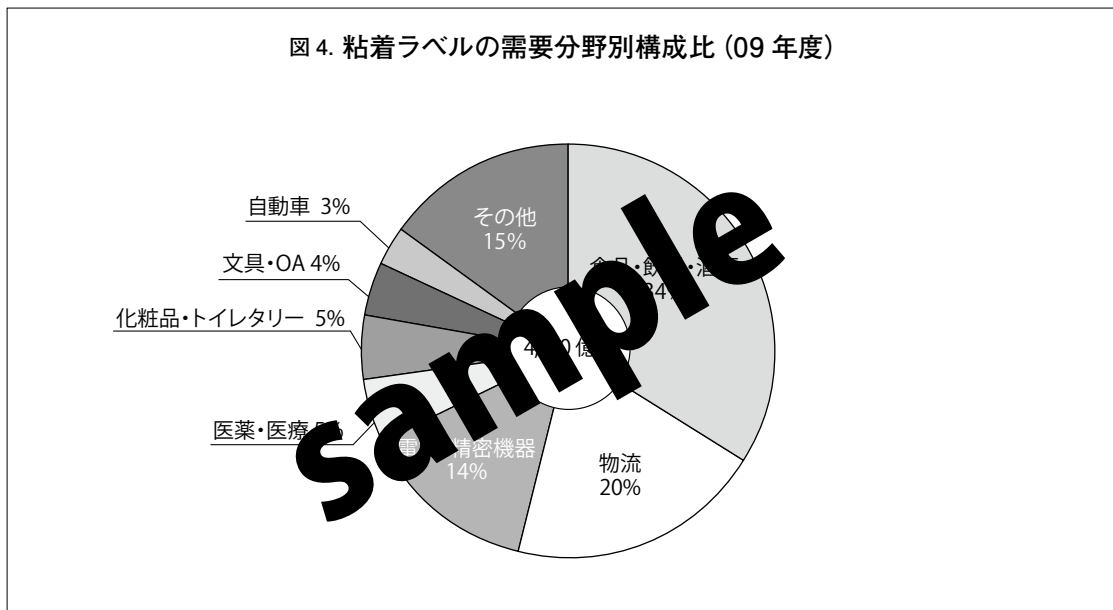
4) 粘着ラベルの需要分野別動向

粘着ラベルにおけるトップ需要は、食品・飲料・酒類分野。ラベル印刷会社においても、食品分野をメインに展開する企業は圧倒的に多い。

続いて、物流、電機・精密機器分野で、両分野では可変情報ラベルを多く採用している。医薬・医療分野は、医療過誤を防ぐ目的から、アンプル剤は色と文字の双方による識別が必要となっており、可変情報印刷とカラー印刷、ラベリング適性などの観点から粘着ラベルの採用が進む傾向にある。

化粧品・トイレタリー分野は、用途によってさまざまなラベルが採用されているが、直接印刷されている商品においては、今後、加飾性や在庫削減などを目的に粘着ラベルへ転換される可能性を秘めている。

図4. 粘着ラベルの需要分野別構成比 (09年度)



2. 日本のラベル需要分野別動向

09年の粘着ラベル市場を需要分野別にみると、プラス成長は医薬・医療の3.1%増、トイレタリーの0.9%増の2分野にとどまり、ほかの分野は、軒並みマイナス成長となった。

粘着ラベル市場において、リーマン・ショックによる世界同時不況は09年に大きな影を落としたが、10年には回復基調に向かっている分野が多い。

